

会 長 あ い さ つ

日頃より全日本アーチェリー連盟の事業にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。また本日はご多忙のところ、臨時総会にご出席をいただき、誠にありがとうございます。

さて本連盟は本邦におけるアーチェリーの普及発展ならびに競技力向上を使命とし、様々な事業に取り組んでおります。現在本連盟の競技登録者は約 11,000 人おりますが、未登録者を含めると 2 万人近い愛好者がいるものと推計しております。アーチェリーはその競技の特性により、子供からご年配の方々まで幅広い世代が気軽に取組める生涯スポーツであると同時に、お身体に障がいを持つ方も競技会に参加されるなど、健常者とパラ競技者との垣根が低く、社会が求める多様性にも適う一面があると考えております。

少し振り返ると、2021 年 7 月に「東京 2020 オリンピック競技大会」が開催されました。アーチェリー競技は 7 月 23 日から 7 月 31 日までの 9 日間にわたり、東京都江東区・夢の島公園アーチェリー場にて行われ、日本チームは新種目となった混合団体、女子団体、男子団体、男女の個人戦のすべてに出場いたしました。熱戦の末、男子団体で銅メダル、男子個人でも銅メダルを獲得いたしました。また女子団体も 5 位入賞を果たすなど、好成績を取ることができました。これは選手たちの不断の努力の成果であることは言うまでもありませんが、本連盟を支えてくださる会員の皆さま、所属先やスポンサーの方々のご多大なるご支援によることであり、あらためて感謝申し上げます。また 8 月にポーランドで開催された「世界ユース選手権大会」においても、ジュニア男子個人、ジュニア女子団体で金メダル、キャデット混合団体で銀メダルを獲得いたしました。若い世代が世界で活躍することは大変喜ばしいことであると同時に、本連盟の強化事業が次のパリオリンピックに向けて、着実に進んでいることの証でもあると考えております。

一方、現在世界中で流行している新型コロナウイルス感染症の影響はアーチェリー界にも波及しており、本連盟主催の選手権大会や競技会、普及事業などが、中止や実施内容の変更を余儀なくされるなど、日々むずかしい判断を求められています。また近年、中央競技団体は国の指針にもとづき、自立した運営をすることが強く求められています。加えてコンプライアンス強化、ガバナンス確保、さらには多様性や環境への配慮など、スポーツ団体が担うべき責任は、これまでより大きくなってきております。

このような状況の中、本連盟は昨年 6 月に役員体制一新し、新たなスタートを切りました。新体制のもとではこれまで以上に事業の充実を図り、競技人口の拡大に取り組むとともに、3 年後のパリオリンピックに向けて、さらなる競技力向上に努めたいと考えており、これら

を支える財務基盤の構築にも取り組んで参りたいと考えております。また公益法人として多様化する社会のニーズにも応え、その使命を果たしていきたいと考えております。

このたび本連盟理事会より2つの議案をご提案し、ご審議いただく運びとなりました。加盟団体の皆さま、会員の皆さまにはご負担をおかけすることとは思いますが、本連盟のさらなる発展とアーチェリー競技の一層の普及、社会貢献のために、ご理解を賜りたくお願い申し上げます。

2022年2月23日

公益社団法人 全日本アーチェリー連盟

会長 